



令和4年度 山内図書館事業報告書

有隣堂グループ

2023年5月

目 次

1. 山内図書館の基本方針	2
(1) 山内図書館の概要	2
(2) 指定管理者	2
(3) 山内図書館のコンセプト	2
2. 5年間の達成目標（令和2年4月～令和7年3月）	3
3. 令和4年度の事業報告	3
(1) 運営目標と振り返り	3
(2) 具体的な取り組み	5
ア 利用者サービス	5
イ 業務運営	11
ウ 職員育成	12
エ 財務	12
4. 決算	14
令和4年度「横浜市山内図書館」収支決算書	
別紙1. 令和4年度山内図書館自主企画事業実施事業月別一覧	
別紙2. 令和4年度山内図書館学校連携活動報告	
別紙3. 令和4年度山内図書館建築・設備保守管理実施表	

1. 山内図書館の基本方針

(1) 山内図書館の概要

施設名	横浜市山内図書館
所在地	横浜市青葉区あざみ野二丁目3番地の2
構造規模	鉄筋コンクリート造3階建 (図書館部分：2階) 地区センター併設(全体 4,433.28 m ²)
延床面積	2,147.22 m ²
付帯	駐車場(施設全体で12台、業務用3台、 身障者用1台)



山内図書館は、昭和52年に横浜市内で2番目の地域館として開館しました。駅から徒歩3分の場所にあり、アクセスのよい便利な図書館です。蔵書数は中央図書館に次いで市内2番目(190,8950冊 典拠:『横浜市の図書館 2022』)と規模の大きい図書館です。平成22年度から有隣堂グループを指定管理者とする管理運営が行われており、令和2年度から令和6年度の期間も引き続き有隣堂グループによる指定管理運営を行います。

(2) 指定管理者

名称	有隣堂グループ
所在地	横浜市戸塚区品濃町881-16
代表団体	株式会社 有隣堂 代表取締役社長 松信健太郎
構成団体	三洋装備株式会社 代表取締役社長 菅生龍太郎
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日

指定管理者有隣堂グループは、「本」を専門とする株式会社有隣堂と「施設維持管理」を専門とする三洋装備株式会社で構成しています。有隣堂は、貸出返却・登録・レファレンスなどのカウンター業務をはじめ、資料の管理、予約業務、自主企画事業などの図書館運営全般を行っています。三洋装備は、山内地区センターとの共用部分を含む建物管理や日々の清掃業務および図書取次サービスを担当しています。

(3) 山内図書館のコンセプト

「地域」の力を「地域」に還元！

山内図書館は青葉区民のプラットフォーム

「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」(平成26年施行)のもとで、図書館に「地域連携」という新たな課題が示された第二期では、積極的に地域との連携を図ってきました。第三期ではさらに連携を進め、地域コミュニティ創造の担い手として、民間ノウハウ・民間能力を存分に発揮し、インパクトのある事業の創出や、チャレンジ感溢れる取り組みを実践し、地域に根ざしたサービスの拡充に努めます。

2. 5年間の達成目標（令和2年4月～令和7年3月）

指定管理の実施により達成すべき目標は以下の3つです。

- (1) 地域の情報拠点機能を強化し、地域の要望や要請に応えられる蔵書構築に努め、暮らしに役立つ情報の収集・提供を行います。
- (2) 司書が読書活動コーディネーターとして地域との連携を進め、地域の読書活動を推進します。
- (3) 快適で楽しい読書環境づくりを促進します。

3. 令和4年度の事業報告

(1) 運営目標と振り返り

横浜市立図書館において毎年策定される「横浜市立図書館の目標」、「年間資料収集計画」および「山内図書館事業計画」の令和4年度版に基づき、サービスを展開しました。引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底し、開館時間の変更や臨時休館はありませんでした。

開館45周年にあたり、周年記念事業を企画、各事業を計画通りに実施することができました。感染対策の一環として参加人数をしばっていることから、参加人数はコロナ前の半数程度となっています。

	運営目標	管理指標	目標値	実施状況	
ア 利用者サービス	(ア) 区内の図書貸出施設や団体、ボランティア等と連携した地域の読書活動	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診のおはなし会開催 ・市民ギャラリーあざみ野の講座開催に協力 ・修理ボランティアに活動の場を提供 ・読み聞かせボランティアに活動の場を提供 ・修理ボランティアの養成講座開催 ・読み聞かせボランティア向け講座開催 	<ul style="list-style-type: none"> 6回 1回 50回 40回 1回 計画になし 	<ul style="list-style-type: none"> 11回 1回 68回 119回 0回 1回 	
	(イ) 区内読書活動拠点のネットワーク構築	<ul style="list-style-type: none"> ・読書関係団体交流会（青葉区役所と共催） 	<ul style="list-style-type: none"> 1回 	<ul style="list-style-type: none"> 1回 	
	(ウ) 図書館環境の整備・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・照明のLED化 ・児童コーナーのリニューアル 	<ul style="list-style-type: none"> 未交換部分 	<ul style="list-style-type: none"> 書架増設・サイン更新 	<ul style="list-style-type: none"> 未交換部分 実施
	(エ) 新型コロナウイルス感染症予防対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンタービニールカーテン整備 ・閲覧席のパーテーション ・消毒液、ビニール手袋、便座クリーナー等、消毒用物品の補充 	<ul style="list-style-type: none"> 再設置 再設置 適宜 	<ul style="list-style-type: none"> 再設置 再設置 適宜 	
	(オ) 課題解決・読書活動支援事業の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・自主企画事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度事業計画別紙1参照 	<ul style="list-style-type: none"> 別紙1参照 	

	運営目標	管理指標	目標値	実施状況
	(カ)レファレンス機能の充実	・オンラインデータベースの見直し ・レファレンスカウンター「よろず相談処」への職員配置	2種 常時	2種 常時
ア 利用 者 サ ー ビ ス	(キ)地域資料の収集	・青葉区役所におけるパンフレットおよびリーフレットの収集	20回	16回
	(ク)開館45周年事業の開催	・春の特別おはなし会開館記念日版 ・芥川賞作家によるトークショー ・修理ボランティア結成10周年記念事業 ・郷土史に関する連続展示 ・佐藤春夫生誕130年記念事業 郷土史家とゆかりの地探訪 佐藤春夫関連展示 ・おすすめ本の紹介45点 ・山内図書館キャラクター「やまちゃん」ぬり絵展示 ・「やまちゃん」グッズ作製	津村記久子 街歩き 展示 推し本展示 展示 缶バッジ ポストカード	4月実施 2月実施 3月実施 3回実施 9月実施 9月実施 10月実施 6～7月と 10月実施 1,000個 2,000枚
	(ケ)大人の倶楽部活動の起ち上げ	・街あるき倶楽部の活動 ・読書倶楽部の活動	6回 6回	6回 6回
	(コ)オンライン配信への対応	・オンライン配信向き自主企画事業のコンテンツ作成	Zoom ウェビナーを用いた配信	2月実施
	(カ)学校への支援	・学校連携事業 ・ホームページ<学校支援>のページを更新 ・職業体験やインターンシップへの「Life with Reading」ワークショップ導入 ・こども版 Life with Reading「本の楽しみ方カード」を使ったワークショップを小中学校で開催	令和4年度事業計画書別紙2参照 適宜更新 中学校で開催 小学校で開催 研究会	令和4年度事業報告書別紙2参照 適宜更新 1校で開催 8校で開催 1回開催
	(シ)障がい者支援を積極的に推進	・県立特別支援学校からの職業体験受け入れ ・対面朗読の実施 ・青葉区社会福祉協議会との協力事業 ・認知症関連図書コーナー「Dブックス」の新設	2校 20回 計画になし 計画になし	2校 63回 1回 9月新設

	運営目標	管理指標	目標値	実施状況
ア 利用者サービス	(ス) 幅広い情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、ブログを活用した情報発信 ・SNSを活用した情報発信 ・青葉区役所戸籍課への図書館作成チラシ提供 ・図書館だよりの発行 	適宜更新 ツイッター 200回 (600枚) ×12回 4回	適宜更新 ツイッター 214回 (600枚) ×12回 4回
	(セ) 新規利用者の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の市場「図書館 de マルシェ」を定期的を開催する ・出張登録 	10回 計画になし	13回 1回
イ 業務運営	(ア) コンプライアンスの徹底	・コンプライアンス研修	1回	1回
	(イ) 防災への取り組み	・地区センターとの合同防災訓練	2回	2回
	(ウ) 危機管理、安全衛生管理の徹底と、安全・安心な図書館づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの運用 ・図書館スタッフ、設備管理スタッフによる巡回 ・事件事故防止マニュアルの見直しと有事初動の確認 ・事件・事故を想定した危機対応研修 	運用 1日8回 見直しと確認 1回	運用 1日8回以上 見直しと確認 1回
	(エ) 個人情報保護の考え方のスタッフ全員への周知徹底と適正管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護教育 ・個人情報内部監査 ・個人情報保護研修 	2回 1回 1回	2回 1回 1回
ウ 職員育成	(ア) スタッフへの教育・研修の実施による能力向上・意欲の維持向上	<ul style="list-style-type: none"> ・接遇研修 ・人権研修 ・アルバイト向け修理講座 ・商用データベース研修 	1回 1回 1回 1回	1回 1回 1回 1回
エ 財務	(ア) 予算内の経費執行と効率的な管理	<ul style="list-style-type: none"> ・山内堂の売り上げ ※令和2年度の実績に基づき算出	8万円	11万円

(2) 具体的な取り組み

ア 利用者サービス

(ア) 区内の図書貸出施設や団体、ボランティア等と連携した地域の読書活動

- ・青葉区福祉保健センターの1歳半の乳幼児健診に月1回(8月を除く)出向し、手遊びをおりませながら、おはなし会を開催しました。初めておはなし会に参加するという親子が多く、絵本に親しむきっかけを創出しています。また、後日山内図書館に来館してくれた親子もあり、図書館の広報の場ともなっています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために感染症予防

を徹底した上で実施をしました。

- ・市民ギャラリーあざみ野は山内図書館から徒歩5分の位置にあり、事業展開において協力関係を築いています。令和4年度は、同ギャラリーが開催した「横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展」のパネルを館内の新聞雑誌コーナーで展示しました。
- ・修理ボランティアの2グループに、活動の場を提供しました。2グループ合計で、山内図書館の本を年間 68 回集まって合計 202 冊修理しました。また、小中学校の図書館で修理にあっている学校司書やボランティアからの相談を受け、支援を行いました。修理グループ一期の会は、活動 10 周年記念として、小学生向けの製本講座を開催しました。
- ・読み聞かせボランティアに活動の場を提供しました。山内図書館で開催する各種おはなし会に出演いただきました。
 - ①定例のおはなし会 67 回
 - ②おはなしごっこ012 24 回
 - ③夏のおはなし祭り 19 回
 - ④えいごのおはなし会 2回
 - ⑤ふるさと青葉の紙芝居 2回
 - ⑥大人のためのおはなし会 3回
- ・ボランティア向けに外部講師を招き、わらべうた講座を開催しました。

(イ) 読書活動推進のための区内読書活動拠点のネットワーク構築

- ・青葉区役所と共催による読書関係団体交流会を開催しました。2部構成とし、第1部は、絵本講師の内田早苗氏を迎え、集団の場で絵本を読む意味や絵本の選び方、子どもの発達・成長と絵本の関わり、主催者としての場づくりを行う際のポイントについてお話いただきました。第2部は読書活動を行っている施設やグループの方が、日々の活動についてグループワーク形式で情報交換を行いました。他団体とのネットワーク作りの場としても機能していました。

(ウ) 図書館環境の整備・改善

- ・昨年度に引き続き照明の LED 化をすすめました。令和4年度はカウンター回りと児童の調べものコーナーの LED 化が完了しました。
- ・絵本の棚を増設して、児童コーナーのリニューアルをしました。蔵書が増えるにともなって、配架が複雑になっていた絵本を、利用しやすい配架に組み替えました。また、カラフルな椅子に入れ替え、一部は動物をあしらったものにしました。

(エ) 新型コロナウイルス感染症予防対策の実施

- ・カウンター周りのビニールカーテンの架け換えをしました。定期的に清拭していましたが、経年劣化してきたことから新しいカーテンを購入しました。
- ・閲覧席は間引いたままですが、一部のコーナーの座席にはパーテーションを設置し、席数を戻しました。
- ・消毒液、手袋、便座クリーナー、キッチンペーパー等消毒用品を適切に在庫管理しました。

(オ) 課題解決・読書活動支援の展開

別紙1のとおり自主企画事業を実施し、市民の課題解決を図るとともに、読書活動を推進しまし

た。主な事業は以下のとおりです(後述の45周年事業を除く)。

- ・8月に、小学4～6年生を対象に、「わくわく科学教室 タネと発芽」を開催しました。市販のハトのえさの中からタネを仕分ける実習のあと、発芽した芽を観察し、タネの講義を行いました。
- ・11月に、中学生以上を対象に、「書きたい！人のショートショート講座」を開催しました。ショートショート作家の田丸雅智氏を迎え、氏が考案したワークシートを使用して、アイデア出しから作品の完成まで体験できるようにしました。10代が多く参加したことが特徴的でした。
- ・2月にルーラル電子図書館(農山漁村文化協会)を使って、「大人のための調べ方講座 野菜づくりの裏ワザとコツ」を開催しました。家庭菜園等への関心も高まっていることから、参加者は熱心に受講していました。
- ・あざみ野ブックカフェは年4回開催しました。
6月「あまり見かけないけれど楽しい社史」、9月「もしバナ 親や自分の「もしも…」を考えてみよう」、12月「気持ちを伝える話し方」、3月「日本刀、その魅力」といった、各回趣の異なるテーマを設定しました。

(カ) レファレンス機能の充実

- ・農業を主題とした農山漁村文化協会のデータベースを導入しました。青葉区は、市内でも農家数が多く、都筑区に次いで2番目となっています(出典:「2020年農業センサス」)。また、戸建ての庭で家庭菜園を楽しむ人も多いことから、農文協のデータベースを導入しました。植付時期の4月、収穫時の7月の利用が多くなっています。
- ・神奈川新聞のデータベースは、縮刷版ディスクの後続として、独自にデータベース契約をしていましたが、横浜市全体で導入しているデータベースの方が検索対象期間が長いことから、独自契約を解消しました。
- ・レファレンスカウンター「よろず相談処」に職員を常時1名配置しています。土・日・祝日は相談件数が多くなることから、統括カウンターにも職員を配置し、2名体制でレファレンスに対応しています。

(キ) 地域資料の収集

- ・青葉区役所、区内市民利用施設に出向いた際に、地域資料になりうるパンフレット・リーフレットを持ち帰り、資料受入をしました。

(ク) 45周年事業の開催

山内図書館は昭和52(1977)年4月12日に開館しました。令和5年度は開館45周年にあたることから下記の記念事業を展開しました。

- ・春の特別おはなし会開館記念日版(4月)
定例のおはなし会とは対象年齢が異なる、小学1～3年生向けのおはなし会を日曜日に開催しました。参加者には記念品(45周年絵ハガキ、記念バッジ、記念シール、読書推進のしおり)を配布、演目に詩の朗読を含めたところ、集中して聞いてくれていました。
- ・芥川賞作家によるトークショー(2月)
津村記久子氏を招いてトークショーを開催しました。昨秋津村氏原作のドラマがNHKで放送されたこともあり、従来のファンとともに幅広い年齢層の参加がみられました。会場参加に加えオンライン配信を実施したため、会場参加の当選から外れてしまった方、来場参加が難しい方など、より多くの方に参加してもらう機会ができました。
- ・修理ボランティア結成10周年記念事業

修理ボランティア「リペアー期の会」は平成 23 (2011) 年に結成され、令和3 (2021) 年に結成 10 周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症予防の観点から記念事業を見合わせていましたが、山内図書館の開館 45 周年に合わせて、3月に小学生を対象とした「読書ノート作り」の講座を開催しました。併せてオープン修理を行い、訪れた人が修理の様子を見学できるようにしました。

・郷土史に関する連続展示

「大人の倶楽部活動～街歩き」で活用した街歩きの地図に、講師が史跡の解説や周辺の歴史を書き込んだパネルを展示しました。街歩きにあわせて3回更新しています。

・佐藤春夫生誕 130 年記念事業

佐藤春夫は、一時期青葉区の鉄(くろがね)に住んでいたことがあり、代表作『田園の憂鬱』は鉄が舞台となっています。令和4年は春夫の生誕 130 周年にあたることから、山内図書館の開館45周年とかけあわせて下記の記念事業を実施しました。

①郷土史家とゆかりの地探訪 「絹の道と佐藤春夫の足跡をたどる」と題して街歩きを行いました。佐藤春夫の寓居場所や寓居の移転場所、最初に寓居した長光寺などを見学しました。

②出身地の和歌山県新宮市にある「佐藤春夫記念館」と、春夫がキャラクターとして登場するオンラインゲーム「文豪とアルケミスト」と連携して展示を行いました。記念館からはパネル6点を借り受けました。「文豪とアルケミスト」は等身大パネル等の展示を行うとともに、タイアップしてポストカードを作成し、アンケート回答者に配布しました。また、雑誌と新聞の記事リストを作成して配布しました。県外からの来館者も多く、ツイッターのインプレッション数も 10 万件を変えており、タイアップの効果が大きく表れた企画となりました。

・おすすめ本の紹介

「あなたの“推し本”教えてください。」と題して、利用者からおすすめ本の紹介を募りました。若い利用者からの応募が多く、36 件回収できました。職員のおすすめ本と併せて展示しました。

・山内図書館のキャラクター「やまちゃん」のぬり絵展示

山内図書館のキャラクター「やまちゃん」のオリジナルぬり絵を作成し、「本の世界をぬってみよう！」と題した展示を行いました。参加者が多かったことから、6～7月と 10 月の2回に分けて展示しました。図柄は「やまちゃん」が本の世界から飛び出してくるというもので、ぬりえの難易度を若干高めにしたところ、小さな子どもから大人まで幅ひろい世代の参加を得ました。

・「やまちゃん」の 45 周年図柄を配した記念グッズを2種類作成しました。

①ポストカードを 2,000 枚作成し、事業等で配布するとともに、館内に設置し自由配布としました。

②缶バッチを 1,000 個作成し事業等で配布しました。

(ケ) 大人の倶楽部活動の起ち上げ

・街歩きの倶楽部を起ち上げました。部員は都度募集としました。年6回開催し、青葉区内の旧道や史跡を講師の話を聞きながら歩きました。

①6月 石川村の旧道を歩く 驚神社から満願寺まで

②9月 絹の道と佐藤春夫の足跡をたどる

③10月 郷土史家とみる牛込の獅子舞

④11月 奈良・恩田の戦争遺跡と水神姫の城をめぐる

- ⑤1月 探訪！大山街道 不死身の一里榎と峠茶屋の伝説を訪ねて
- ⑥3月 石川村の旧道を歩く・続 保木薬師堂から平崎橋まで
- ・読書倶楽部を起ち上げました。部員は都度募集としました。年6回開催し、読んだ本の紹介や読書についての情報共有を行いました。
- ①4月 Life with Reading
- ②6月 ビブリオバトル
- ③8月 読書会(6月のビブリオバトルチャンプ本)
- ④10月 Life with Reading
- ⑤12月 読書会(テーマは「今年の推し本」)
- ⑥3月 読書会(テーマは「春」)

(コ) オンライン配信への対応

- ・大型講演会の「津村記久子トークイベント」は会場とオンライン配信の2本だてで開催しました。オンライン配信を実施したため、会場参加の当選から外れてしまった方、来場参加が難しい方など、より多くの方に参加してもらう機会ができました。
- ・Zoom ミーティングを職員が輪番で主催し、職員会議を開催しました。職員全員がミーティングの参加方法とともに、主催するときのノウハウを習得する機会としています。

(サ) 学校への支援

- ・5月に学校図書館の司書及びボランティアを対象に、「本の整理と修理の基本講座」を2回連続講座として開催しました。本の修理に必要な道具や分類、本の構造など基礎的な内容と修理実習を実施しました。
- ・10月から11月にかけて、修理の基礎を身に着けた学校ボランティアに対し「本の修理ステップアップ講座」を3回連続講座として開催しました。簡易修理から一步進んだアジロ綴じの修理を学んでもらいました。
- ・6月に、小学校で読み聞かせの活動をしている司書・ボランティアを対象に、「小学校での読み聞かせ講座初級編」を2回連続講座として開催しました。1回目は、読み聞かせに向く本の選び方や読み聞かせの基本の講義のあと、講師が実際に絵本の読み聞かせを行いました。2回目は、参加者に絵本を選んできてもらい、実際によみきかせを実演してもらいました。
- ・2月に、市内で小中学校における読み聞かせの活動をしている方を対象に、「読み聞かせステップアップ講座」を開催しました。1回目は、読み聞かせ経験者へのステップアップとして、アドバイザーを招き、読み聞かせのより深い学びや活動へのヒントが得られる講座を開催しました。2回目は、以前に開催していたボランティア交流会を参考とし、グループディスカッションを行いました。学校図書館での担い手の不足、本の選書や語り、業務上の工夫などが話題として上がっていました。
- ・ホームページ「学校支援のページ」の更新を行い、最新の情報を発信しました。トップページには令和4年度のプログラムをアップし、講座・イベントのお知らせは適宜更新しました。お役立ち情報として掲載している「Life with Reading」の子ども版が4月に発行されたのを受け、子ども版「本の楽しみかたカード」のワークショップ開催の支援ツールをアップして、自由にダウンロードできるようにしました。

- ・中学校からの依頼を受け、7月に「Life with Reading」のワークショップ開催を支援しました。
- ・小学校7校で「本の楽しみかたカード」を使ったワークショップ開催を支援しました。また、小学校の図書館担等教諭が開催する「学校図書館教育研究会」において「本の楽しみかたカード」のワークショップを開催しました。
- ・中学校からの依頼を受け支援員を派遣し、11月に「ビブリオバトル」を開催しました。

(シ) 障がい者支援

- ・神奈川県立特別支援学校高等部から、10月に職業体験を受け入れました。事前の準備として4月から9月まで6回の打ち合わせを重ねています。
- ・神奈川県立特別支援学校小学部の図書館見学を、7月と1月に受け入れました。担当教諭と連絡を密にとりながら準備をすすめました。
- ・対面朗読を63回実施しました。利用希望者からの電話を受け、音訳者をコーディネートしています。令和4年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、対面朗読室の利用を避け、広さの確保できるやまちゃんおはなしの部屋で実施しました。
- ・12月に青葉区社会福祉協議会に協力して障がい者週間キャンペーン映画上映会を山内図書館で開催しました。
- ・9月23日の「手話言語の国際デー」に併せて、手話関連の図書展示を行いました。
- ・9月の世界アルツハイマー月間にあわせて、認知症関連の本を集めたコーナー「D ブックス」を新設しました。D ブックスのDは認知症の英語 Dementia の頭文字からとっています。
- ・令和元年度新設した「りんごの棚（障がい者向けの本および障がい者を理解するための本を集めて置いたコーナー）」の蔵書補強を行いました。やさしく書かれたLLブックや、障がい者を理解するための本など16冊を新規購入しました。

(ス) 幅広い情報発信

- ・編集委員が企画編集して、図書館だよりを年4回発行しました。4回の特集内容は、「大人の倶楽部活動～街歩き」、「CDブック追加」、「WEB 予約席」、「津村記久子トークイベント『書くこと、考えること』を開催しました」となっています。
- ・ホームページ(PC版、スマートフォン版)、ブログによる図書館からの情報発信を行いました。ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）としてツイッターを用い、214回発信しました。9月の佐藤春夫の展示告知の際には、オンラインゲーム「文豪とアルケミスト」とタイアップしたことが功を奏し、リツイートが1,000件を超え、「いいね」は1,800件を超えました。フォロワー数も80増加しています。
- ・地域のミニコミ誌への情報提供を定期的に行いました。
- ・地域のコミュニティFMに山内図書館の事業やサービスの広報原稿を作成して送り、パーソナリティに読んでもらいました(6回)。
- ・図書館サービスのチラシを区役所から転入者に配布する「情報の福袋」に加えてもらい、新住民に広く図書館サービスを知ってもらうよう努めました。
- ・ホームページで、「事業計画書」「事業報告書」「利用者フォーラム議事録」「セルフモニタリング評価書」「山内図書館の目標・振り返り」といった山内図書館の運営情報を公開しました。

(セ) 新規利用者の獲得

- ・図書館の利用者を広げることを目的として、地産地消の市(いち)「図書館 de マルシェ」を図書館前庭で毎月開きました。月1回の開催に加えて、2月の大人の調べ方講座「野菜づくりのコツと裏ワザ」の際に、野菜つながりで臨時の市を立てました。毎月市を楽しみに訪れてくれる人もあり、「ついでに図書館を覗いて帰る」という流れもできています。

イ 業務運営

(ア) コンプライアンスの徹底

- ・4月に職員・アルバイト全スタッフを対象にコンプライアンス研修を行い、企業行動指針を確認しました。全スタッフが有隣堂のエシックスカードを常に携帯し、倫理法令遵守に努めました。

(イ) 防災への取り組み

- ・併設の山内地区センターと合同で防災訓練を2回行いました。9月に山内地区センターの調理室を火元に想定した避難訓練を実施、3月には青葉区消防署の指導により AED の取り扱いの訓練を実施しました。

(ウ) 危機管理、安全衛生管理の徹底と、安全・安心な図書館づくり

- ・「安全目安箱」を設置し、設備・備品等の不具合や働く上での課題をスタッフから無記名で投書してもらうようにしました。
- ・職員とアルバイトスタッフ(リーダー、サブリーダー)で月1回話し合いをもち、安全衛生を含めた課題を話し合い、解決につなげました。
- ・7月に警備会社から講師を招き、危機管理研修をスタッフ全員と山内地区センタースタッフとで受講しました。カウンターに不審者がきた場合の対応を実演を交えながら学びました。
- ・「横浜市山内図書館 防犯カメラ運用基準」に則り、図書館内の防犯カメラを運用しました。
- ・施設管理のスタッフが図書館内を1日3回、図書館職員が1日5～7回巡回して防犯および安全管理に努めました。
- ・2月に情報セキュリティ研修を実施しました。

(エ) 個人情報保護の考え方のスタッフ全員への徹底周知と、個人情報の適正管理

「横浜市個人情報の保護に関する条例」および「有隣堂個人情報保護方針」に基づき個人情報の収集・利用・管理について、適切に実施するよう努めました。

- ・個人情報保護研修 年2回(4月、2月実施)
- ・有隣堂プライバシーマネジメントシステム監査 年1回(6月実施)
- ・個人情報保護点検 年2回(4月、10月)

(オ) 施設・設備の維持管理

- ・建築物・建築設備ともに令和4年度山内図書館建築・設備保守管理表に基づき点検を実施しました(別紙3)。積極的な保守管理を行い、異常が発生する前の予防保全を行いました。
- ・施設管理者点検の点検結果に基づき優先順位をつけ、計画的な修繕を実施しました。

(オ) その他

- ・職員会議を毎週火曜日に 45 分間開催し、職員間で情報の共有を図るとともに、課題については解決策を討議しました(令和4年度開催数 49 回)。
- ・有隣堂本部と館長・副館長による職員の評価とヒアリングを行い、問題の解決を図り、モチベーションの向上につなげました。
- ・新型コロナウイルス感染症防止対策として、以下の取組を継続して行いました。
 - ①神奈川県 LINE コロナお知らせシステムに登録し、感染防止対策取組書を掲出
 - ②横浜市立図書館の感染予防対策および有隣堂「新型コロナウイルス感染及び感染疑い者発生時の対応マニュアル」に準拠
 - ③出入口にアルコール消毒液を設置
 - ④飛沫感染防止のために、カウンターにビニールの仕切りを設置
 - ⑤貸出カウンターに並ぶ際に密にならないように、並ぶ目安を床に明示
 - ⑥閲覧席の間隔を開けて席数を制限し、仕切り板を設置
 - ⑦定期的に窓を開け、換気
 - ⑧図書除菌機の設置
 - ⑨利用が終わった閲覧席のアルコール消毒
 - ⑩閉館後に、利用者が多く触れている可能性のある場所を消毒
 - ⑪職員およびアルバイトスタッフの貸出・返却カウンターにおけるマスク・手袋着用を徹底
 - ⑫職員およびアルバイトスタッフの休憩時食事時の発語の禁止
 - ⑬利用者へのポスター、放送によるマスク着用の呼び掛け

ウ 職員育成

(ア) スタッフへの教育・研修の実施による能力向上・意欲の維持向上

- ・職員が中央図書館、県立図書館、神奈川県図書館協会主催の研修やその他の研修に 14 回参加し、それぞれの専門性を向上させました。オンライン形式による研修へも積極的に参加し、従来参加する機会が少なかった分野の研修へ参加しました。
- ・研修に参加した後は必ず資料を添付した報告書を作成し、これを回覧することにより、職員全員への情報共有を図りました。研修によっては、職員会議において受講者が研修内容を職員に伝え情報共有を図りました。
- ・職員向けに農業関連の商用データベース「ルーラル電子図書館」の研修を2月に実施しました。提供元の農山漁村文化協会から講師を招き、同データベースの特徴や使い方を学びました。
- ・新人アルバイトを対象に簡易修理講座を開催しました。また、職員の希望者が難易度の高い修理を学べるように、実習の機会を定期的に設けました。
- ・職員およびアルバイトスタッフ全員を対象とした内部研修を実施しました。
 - ①4月に図書館に特化した接客研修を実施しました。窓口で好感度の高い接客を行う方法とともに、理不尽な怒りをぶつけられた場合の心の対応について学びました。
 - ②10月に視覚に障がいのある方を講師として招き、視覚障がい者を理解するために知っておきたいこと、誘導の仕方、点字ブロックの意味などについて学びました。

エ 財務

(ア) 予算内の経費執行と効率的な管理

- ・電気、ガス料金の高騰の影響により、予算をオーバーしました。

(イ) その他

- ・山内堂は書籍販売の伸長などにより、目標の 138 パーセントの売上となりました。

4. 決算

令和4年度 「横浜市山内図書館」 収支報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	181,240,000		181,240,000	181,240,000	0	横浜市より
横浜市による運営支援（その他）		3,634,000		3,634,000		物価高騰の影響をふまえた横浜市による運営支援（その他）
利用料金収入			0	0	0	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0	0	0	
自主事業収入	80,000		80,000	113,897	△ 33,897	
雑入	480,000		480,000	500,016	△ 20,016	
自動販売機手数料等	480,000		480,000	500,016	△ 20,016	
その他（ ）			0	0	0	
収入合計	181,800,000		181,800,000	185,487,913	△ 53,913	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	104,975,300		104,975,300	105,133,127	△ 157,827	
給与・賃金	89,105,500		89,105,500	92,364,870	△ 3,259,370	賃金スライド
社会保険料	9,174,800		9,174,800	7,049,637	2,125,163	
通勤手当	5,936,000		5,936,000	5,138,620	797,380	
健康診断費	377,000		377,000	400,000	△ 23,000	
福利厚生費	382,000		382,000	180,000	202,000	
事務費	4,515,000		4,515,000	4,635,117	△ 120,117	
旅費	100,000		100,000	116,920	△ 16,920	
消耗品費	1,500,000		1,500,000	1,555,659	△ 55,659	感染症対策物品含む
通信費	500,000		500,000	511,167	△ 11,167	
使用料及び賃借料	15,000		15,000	11,602	3,398	
備品購入費	240,000		240,000	23,100	216,900	
雑誌・新聞購入費	1,620,000		1,620,000	1,859,623	△ 239,623	雑誌単価値上がり他
施設賠償責任保険	120,000		120,000	119,630	370	
職員等研修費	20,000		20,000	0	20,000	
振込手数料	0		0	0	0	
リース料	100,000		100,000	0	100,000	
手数料（ごみ処理費）	300,000		300,000	437,416	△ 137,416	
事業費	5,518,400		5,518,400	5,574,811	△ 56,411	
自主事業費	4,700,000		4,700,000	4,756,411	△ 56,411	座席予約システム料、デジタルサイネージ含む
自主事業費（図書取次サービス）	818,400		818,400	818,400	0	
管理費	34,441,300		34,441,300	38,507,858	29,509,525	
光熱水費	17,200,000		17,200,000	21,714,783	17,200,000	
電気料金	9,500,000		9,500,000	13,422,111	△ 3,922,111	物価高騰の影響 当初予算では一部LED化による電気量減見込
ガス料金	3,500,000		3,500,000	5,120,410	△ 1,620,410	物価高騰の影響
水道料金	4,200,000		4,200,000	3,172,262	1,027,738	
清掃費	5,247,000		5,247,000	5,247,000	5,247,000	
修繕費	1,500,000		1,500,000	902,000	598,000	
機械警備費	880,000		880,000	880,000	0	
設備保全費	6,614,300		6,614,300	6,614,300	6,614,300	
空調衛生設備保守	1,991,000		1,991,000	1,991,000	0	
消防設備保守	396,000		396,000	396,000	0	
電気設備保守	1,221,000		1,221,000	1,221,000	0	
害虫駆除清掃保守	126,500		126,500	126,500	0	
建築設備保全費	2,186,800		2,186,800	2,186,800	0	
その他保全費	693,000		693,000	693,000	0	飲料水・ウォータークーラー水質検査、 植栽剪定・草刈、煤煙測定業務
共益費	3,000,000		3,000,000	3,149,775	△ 149,775	LED交換 児童コーナーのリニューアル
公租公課	9,350,000		9,350,000	9,567,476	△ 217,476	
事務経費	23,000,000		23,000,000	23,000,000	0	本部支援費（人件費、システム経費等）、研修教材費
支出合計	181,800,000	0	181,800,000	186,418,389	△ 4,618,389	
差引	0	0	0	△ 930,476		指定管理者による補填